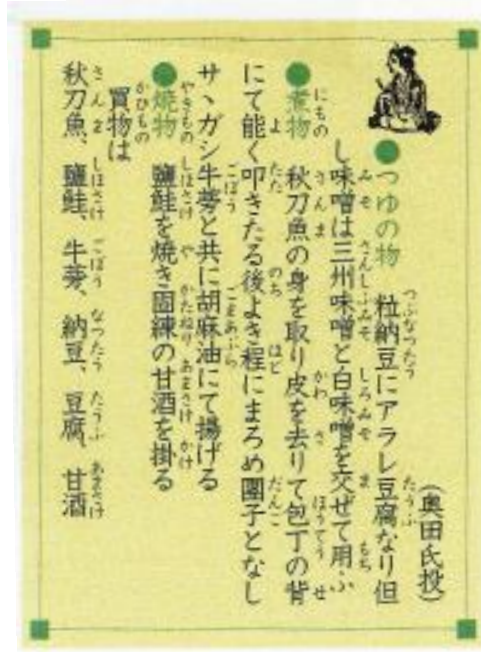


「何にしようか（時事新報記事紹介）」

（出典：福澤諭吉のレシピ集「何にしようか」100年目の晩ごはん
復刻料理◆現代版 ワニマガジン社）



明治26年10月31日
秋サケの粕焼きとサンマとごぼろ団子

当時は知識層を讀者として主に政治を論じる大（おお）新聞と、日常雑多な情報を載せる人衆紙「小（こ）新聞」の区分が明瞭で、時事新報は「小新聞」に分類されました。「独立不羈」の立場を宣言し、報道力と娯楽性も兼ね備え、世間の信望を集めていきます。娯楽性の面では、「何にしようか」のレシピの紹介に囚んで、「西洋だね五目ずし」というタイトルで海外ニュースを掲載しました。

（埃及：エジプト）

明治26年10月11日
埃及王 が此度思立たる欧州旅行の第一の目的は土京コンスタンチノールへ行って王の未來の花嫁と評判され居る土耳其帝の女エミチーナツレー公王と相見んとするに在りと風説せり
盲目の造船家 世界中にて最も驚く可き盲人の一は合衆国ロードアイランド州の造船家ジョン ヘルショツフ氏にして氏が造りたる船足の早き競舟はハルシヨツフの名を全世界に轟かしたり氏は生れて僅十五歳の時より皆無見えぬ盲人なり
英國皇太子御息所の初焼餅 倫敦の取り沙汰に拠ればウエルズ親王御息所は御匹偶の他し女子に心を移させ給ふを見て此頃 生來始めてのチンチンを起し給ひたりウエルズ皇太子の御所持ちは多年來、世界に脱れなきことなるが御息所の殊に焼き給ふは皇太子がブルツク卿夫人に心中立し給ふに在りとぞ

明治26年11月12日
後家の濱口よき譚 後家の男を心酔せしむる所以のものは夫婦暮しの間に成就し得たる所の見界の廣きこと是なり即ち人の妻たりし經歷は我を張らず思遠深くして男の苦とし樂を樂とする事を教へたるものにして凡そ此三つの持前は男子の心の底を突て之を感化するに最も有力なるものなり要するに後家は男を知り盡せり左れば一言半句の間にも能く男の心の秘密を押し取り刺へ如何にせば之に留心するの状を窺ひ得るかを知れり後家は又男の弱點を押ゆるに鈍ならず咄嗟の間に微妙なる巧言を放つに當りても之を云はゞ彼を擒にす可し彼を云はゞ彼に厭氣を生せしむ可しとの判断方に當み何を云て良きや何は云はぬが花との區別は多年の経験に拠りて學び得たり後家は人情界の一種の哲學者にして早くも男と云ふ者は本來、氣血氣儘一杯の獸たり故に首尾よく擒にせんには女は先づ己

（土京：トルコ）

「時事新報」読みかじり
「西洋だね五目ずし」というタイトルで海外ニュースを掲載。

あることを忘れ其語る言葉その爲す所作を一切の男を主としたるものたらしめざる可らずと理合を悟りたり蓋し十中八九の男は終始己の事を考へて己の目的を念ひ己の希望を心に書き己の業を計畫し己の心配己の苦樂、一切萬事己ならざるはなく甚だしきは己の男振までも思積けて止まず左れば愛の所に切込て其實面白くもなしと思ふ事にても充分乘氣の風を拵ひてへハハそんな事も御在ますか學問と云ふものは眞實に面白いものですもつと話して下さいナ伺ひますからと云ひ又はオヤオヤ貴様は誰かに似て居らッしやると思ッたらアレマア横顔はウエルズ皇太子ソツクラで御在ますよ杯と好き機會を見て一寸と甘茶を飲ます等總へて己の事は欄に上げて暖氣にも出さず萬事その男を話の立者とすれば五尺の粗大漢これを降服せしむるに何の難きことかあらん後家が赤繩に市場を制する譯は此手練に在り